

令和 7 年度 特別の教育課程編成の実施状況について

学校法人名・学校名	評価結果の公表
学校法人聖母被昇天学院 アサンプション国際小学校	https://www.assumption.ed.jp/introduction/disclosure/

1. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

英語力を重点的に強化するコース「Assumption English Course」を設置する。英語イマージョン教育によりネイティブと語り合える英語力を養成し、英語を使って主体的に学ぶ探究学習にも取り組む。

(2) 必要となる教育課程の基準の特例

平成 29 年 4 月に英語イマージョン教育を標榜したアサンプションイングリッシュコースを設置するにあたり、教育課程の基準の特例を次のとおりとする。

算数、理科、生活、音楽、図工、英語、総合的な学習の時間について、英語を含む指導により授業を行う。具体的には現行の学習指導要領に定める各学年・教科等の標準時間数を堅持しつつ、6 年間における総授業時間数の約 50% について、英語を含む指導とする（教育課程全体は添付の教育課程表参照）。

(3) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

学校設置地域である大阪府箕面市は多文化交流を重んじ、近隣の大阪大学外国語学部をはじめとする多くの研究機関が設置され、児童に対する英語初等教育の実現が求められている。さらに市内を中心とする在住児童に対しても幼少期から外国語を自由に駆使し、グローバルな視野をもつ国際人として養成することが求められている。それらの要請に応えるため、英語に重点を置いた教育を行い、地域に根付いている国際交流環境の中で、さまざまな背景を持った児童が啓発し理解し合う、さらなる異文化教育の拠点となる環境を構築すべく特別の教育課程を編成する。

(4) 法令上の教育の目標等との関係

ア 教育基本法及び学校教育法における教育の目標に関する規定との関係

英語教育に重点を置く一方で、懸念される日本語力の習得および日本人としての意識涵養には十分な対策を講じる。具体的には国語科の強化と国語能力養成の重要性を認識し、十分な指導を行っていく。

イ 学習指導要領に定める内容事項が特別の教育課程において適切に取り扱われていること

日本語による指導および英語を含む指導の双方について、教員免許を有する教員が検定教科書に準拠した教育を行う。

また児童に対しては、学習指導要領に定める内容事項の到達度について検証するために、適宜、学習到達度のチェックを行う。懸念が生じた場合は、速やかに学習内容の点検、改善を行う。

- ウ 学習指導要領に定める内容事項を指導するための総授業時数が特別の教育課程において確保されていること

現行学習指導要領に定める各学年・教科の授業時間数の標準を確保することを前提に教育課程を編成しており、総授業時間数についても標準時間数を上回る、6830時間を確保する。

(5) 児童又は生徒の教育上適切な配慮及び保護者への配慮

- ア 児童又は生徒の発達の段階並びに各教科等の内容の系統性及び体系性への配慮

アサンプション国際小学校の卒業生の約半数が同一法人であるアサンプション国際中学校へ進学することを想定している。アサンプション国際中学校高等学校は英語教育・国際理解教育・異文化教育等には創立以来の実績を持ち、小学校段階で涵養した英語力を持続発展させる土壌を持ちあわせている。小中が連携して、併設校の強みを生かした、系統的、体系的な学習が可能とする十分な配慮を行う。

- イ 保護者の経済的負担への配慮その他の義務教育における機会均等の観点からの適切な配慮（小学校、中学校、中等教育学校の前期課程又は特別支援学校の小学部若しくは中学部において特別の教育課程を編成・実施する場合のみ記載）

義務教育における機会均等という観点から、保護者の経済的負担にならないような学費設定を検討する。

- ウ 児童又は生徒の教育課程特例校への転出入に対する配慮

転入に関しては基本的には帰国生やインターナショナル幼稚園出身という英語学習環境が充実している中で教育された児童を対象とし、英語教育に特化した教育課程は日本語が堪能でない児童に対して、順応しやすい配慮がされていると考える。日本語と英語を自由に駆使する児童の養成を目指すため、日本語教育にも注力し、児童が転出する際にも、支障がないよう十分に配慮する。

- エ その他特例の実施に当たって必要と考えられる配慮等

今後の運用において、必要に応じた配慮を柔軟に行う。

(6) 特例の適用開始日

平成29年4月1日

(7) 取組の期間

学習指導要領は原則10年毎に改訂されることになっているが、平成29年4月から本学の行う教育課程の趣旨が、学習指導要領改訂時に盛り込まれるまで。

(8) 計画の実施状況の把握・検証及び文部科学省への報告

取組開始後3年の期間を経た平成32年度に計画の実施状況、実施の効果、課題と今後の取り組み等について、文部科学省に報告し、毎年度の実施状況について本学のウェブサイトで公開し、文部科学省へ報告する。

アサンプション国際小学校 教育課程表
(アサンプション・イングリッシュ コース)

区分	各教科の授業時数										特別の教科である宗教の授業時数	特別活動の授業時数	総合的な学習の時間の授業	外国語活動の授業時数	総授業時数
	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画工作	家庭	体育	外国語					
第1学年	306		<u>136</u>		<u>102</u>	<u>68</u>	<u>68</u>		102		34	34		<u>170</u> (+170)	1020 (+170)
第2学年	315		<u>175</u>		<u>105</u>	<u>70</u>	<u>70</u>		105		35	35		<u>175</u> (+175)	1085 (+175)
第3学年	245	70	<u>210</u> (+35)	<u>90</u>		<u>60</u>	<u>60</u>		105		35	35	<u>70</u>	<u>175</u> (+140)	1155 (+175)
第4学年	245	105 (+15)	<u>210</u> (+35)	<u>105</u>		<u>70</u> (+10)	<u>70</u> (+10)		105		35	35	<u>70</u>	<u>140</u> (+105)	1190 (+175)
第5学年	210 (+35)	100	<u>210</u> (+35)	<u>105</u>		<u>50</u>	<u>70</u> (+20)	60	105 (+15)	<u>140</u> (+70)	35	35	<u>70</u>		1190 (+175)
第6学年	210 (+35)	105	<u>210</u> (+35)	<u>105</u>		<u>50</u>	<u>70</u> (+20)	55	105 (+15)	<u>140</u> (+70)	35	35	<u>70</u>		1190 (+175)
合計	1531 (+70)	380 (+15)	<u>1151</u> (+140)	<u>405</u>	<u>207</u>	<u>368</u> (+10)	<u>408</u> (+50)	115	627 (+30)	280 (+140)	209	209	<u>280</u>	<u>660</u> (+590)	6830 (+1045)

- *1 標準授業時数と異なる時数を設定する教科等については、標準授業時数からの増減を（ ）で記入し、網掛けにすること。
- *2 英語による教育（いわゆるイマージョン教育）を行う場合には、標準授業時数や増減時数の下にアンダーラインを引くこと。

2. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

〔 ・計画通り実施できている 〕

(2) 保護者及び地域住民その他関係に対する情報提供の状況

〔 ・計画通り実施できている 〕

(3) 教職員による評価

- ①本校のイマージョン教育は、児童の英語運用能力を向上させるのに十分効果がある内容で進められていましたか。

よくできている	できている	どちらともいえない	あまりできていない	できていない
5%	40%	45%	5%	5%

- ②イマージョン教育を実施する上で、教員の TT による授業は効果的に実施できていましたか。

よくできている	できている	どちらともいえない	あまりできていない	できていない
5%	35%	35%	10%	10%

(4) 保護者による評価

年間3回の授業参観やブログでの発信などを通じて、積極的に授業公開を行い、学校評価アンケートでもフィードバックをいただいている。

- ①本校のイマージョン教育は、児童の英語運用能力を向上させるのに十分効果があると感じられますか。

強く思う	少し思う	どちらともいえない	あまり思わない	全く思わない
17%	43%	25%	10%	5%

- ②イマージョン教育を実施する上で、教員の TT による授業は効果的に実施できていましたか。

強く思う	少し思う	どちらともいえない	あまり思わない	全く思わない
33%	37%	21%	9%	8%

※保護者による学校評価アンケートより（2025 年度 1～6 年イングリッシュコース 96 名回答）

(5) 学校関係者による評価

- ・ネイティブ教員と日本人教員によるダブル担任制のもと、児童自らが課題を発見し探究的に解決する力が大きく向上し、主体的に学ぶ姿勢が育っています。
- ・英語の授業にとどまらず他教科でも日常的に英語に触れることで、入学時に比べて語彙力や総合的な英語力が着実に伸びています。
- ・英語での問いかけに対しても、ためらうことなく流暢に対応する姿が見られます。
- ・外国人との会話や活動を特別視することなく、「当たり前の日常」として自然に受け止める感覚が培われています。
- ・イングリッシュコースにおける日本語での理解を含む基礎・基本の定着についても、放課後学習会やご家庭でのフォローによってしっかりと補完されています。

3. 実施の効果および課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標との関係

本校では「世界の平和に貢献する人の育成」を掲げ、英語イマージョン教育を柱とした「イングリッシュコース」を設置し、高度な英語運用能力と国際人としての資質の育成に努めてきた。令和7年度には4期生が卒業を迎え、併設中学校においても活躍してくれている。また、1期生からの推移を辿ると、英語検定やTOEFL Primary等の数値結果やレシテーションコンテストの発表レベルにおいて、本コースのカリキュラムが確かな効果を上げていることが実証されている。今後はさらなる発展に向け、現状の課題と対策を丁寧に精査していく必要がある。特に、留学生との交流に加え、3年目を迎えて取り組みが定着・充実してきた5年生の海外研修など、実践的な機会を通して生涯にわたり活用できる英語力の定着を推進してきた。

他方で、学年進行に伴い、教科教育の現場では英語の運用能力にとどまらず、思考や理解の基盤となる日本語力の重要性が一層明確になってきている。今後はカリキュラムの柔軟な調整を行い、英語と日本語の指導配分を最適化することで、本課題の解決を図っていく。

(2) 法令上の教育の目標等との関係

学習内容については、日本の学習指導要領に準拠した内容を英語で指導しており、評価においても指導要領の到達目標に即して実施している。授業体制としては教科内容に精通した日本語教員と、高度な英語運用能力を有する外国語教員によるチーム・ティーチング(TT)を採用し、事前事後の密な協議を通じて指導内容の質を担保している。令和8年度に向けた課題は、前年度に引き続き、教科書改訂に対応した本コース独自のテキストおよびテストの作成である。教員の業務負担に配慮し、チーム内での適切な業務分散を図りつつ、教育効果の高い教材の準備・作成を組織的に推進していく。

4. 課題改善のための取り組みの方向性

保護者アンケートの結果からは、本校のイマージョン教育に対して一定の満足度が得られている一方、否定的な評価を示す層も一定数いた。これは、本校の教育内容や成果が保護者に十分伝わっていない可能性があったり、保護者の期待値とのギャップが生じている状況があったりすることが考えられる。そこで、Webサイトやブログで保護者に伝えるとともに、「イングリッシュレター」や学級通信などを活用し、日々の学習成果や取り組みの様子を日常的に実感できる広報・発信体制を強化していく。

あわせて、イングリッシュコースにおける全6学年のカリキュラムを再点検し、本校がインターナショナルスクールとは異なる教育課程にあるという前提に立ち、日本語と英語の指導領域をより明確にすみ分ける必要がある。各年度の実施と振り返りを重ねながら、6年間の体系的なカリキュラム構築を進めていく。特に算数の教科書を変更した今年度は、例年以上に時間をかけてカリキュラムの精査に注力した。今後も「イマージョン会議」を定期的開催して授業実践や児童の様子を共有し、適正な運用に努めるとともに、全校体制でPDCA(計画・実行・評価・改善)サイクルを継続的に回し、教育成果のさらなる向上を図っていく。